

～「屋代線を残そう！市民の集い」～

鉄 道 部

長野電鉄(株)屋代線については、モータリゼーションの進展や新幹線開業等の交通環境の変化等により、年1.8億円の経常赤字となっており、これまでの累積赤字は50億円を超える厳しい経営状況におかれています。このような状況から、平成21年5月に長野市・須坂市・千曲市と関係者により「長野電鉄活性化協議会」を設立し、屋代線の活性化に取り組んでいるところです。しかしながら、屋代線がいわゆる交通軸から離れている等もあり、活性化・存続に向けた沿線地域の動きが盛り上がってこないことが危惧されていました。



このような中、長野市松代地区住民自治協議会・若穂地区住民自治協議会の主催（後援 長野電鉄活性化協議会、長野市、須坂市、千曲市）により、3月3日（水）18：00から「屋代線を残そう！市民の集い」が開催されました。

当日は、長野市若穂支所を会場として、250人を超える長野市・須坂市・千曲市の沿線住民の方々にお集まりいただきました。当局からは、若穂地区住民自治協議会からのご要望により、古田栄蔵 計画課長が「地域鉄道の現状と活性化・再生の事例」と題して講演を行い、地域鉄道がおかれている現状と別所線再生等の事例を説明いたしました。

また、日本民鉄協会主催「小学生新聞コンクール」にて優秀作品賞を受賞した信州大学附属長野小学校6年生の厚木那奈美さんが、「信州民鉄もりあげ隊新聞」の続編「屋代線もりあげ隊出動！」を発表し、屋代線の活性化策を提案しました。小学6年生とは思えないしっかりした説明で、子供ながらの楽しい発想で会場を微笑ませていました。子供がこのように地域鉄道の活性化を真剣に訴えかけている姿に背筋を正す思いに駆られたところです。その後、各沿線地域からの活動報告が行われ、「屋代線の未来をつくる会」設立表明があり、閉会となりました。



提案をする厚木那奈美さん

若穂地区自治協議会のブログを事前に拝見していましたが、「問題は深刻でもソフトで楽しければいいよね」なんて記載がありました。

しかしながら、この「市民の集い」には予想を超える250人超の方々が集まり、情緒あふれる屋代線の動画を放映するなど、とても「楽しく」かつ「盛り上がった」会になっていたと思います。

参加してみて、「鉄道を存続させるには沿線住民活動が大事である」と文字で知っている先進の事例と同じことがいまここに起きつつあるということと、鉄道に限らず子供たちの将来のためにも公共交通を残してやりたいという思いを再確認しました。



厚木那奈美さん（左）